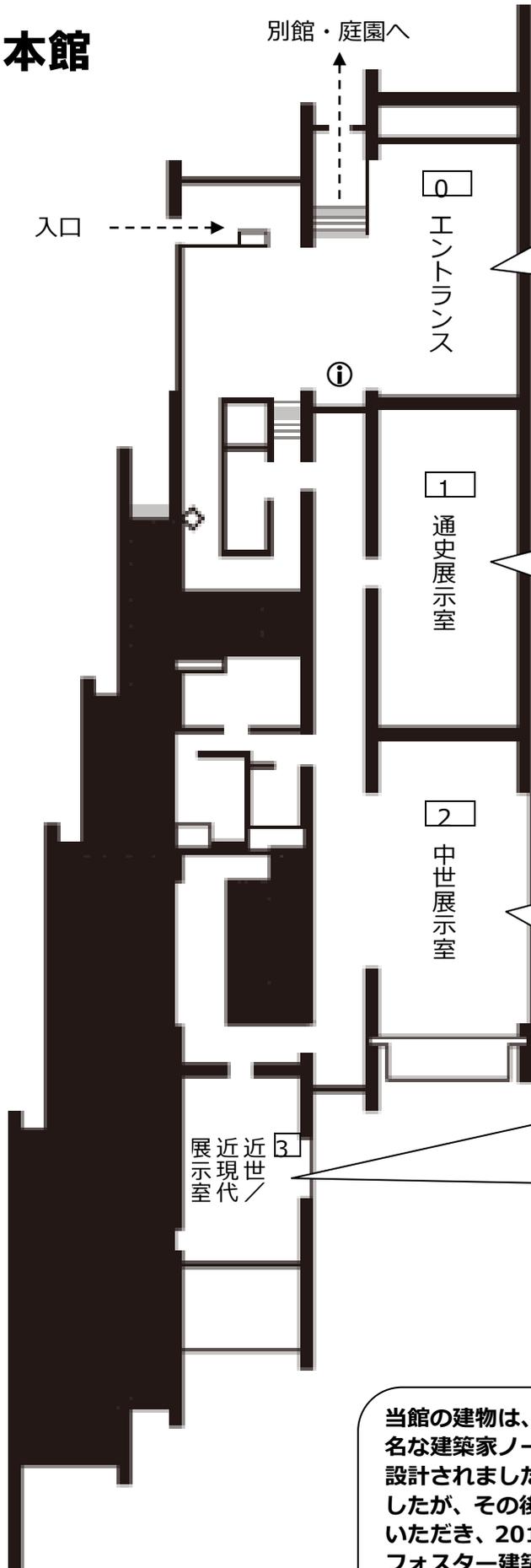


鎌倉歴史文化交流館 展示ガイド

本館



元はガレージだったところ。流鏑馬、鎌倉彫、正宗工芸の刀剣、現代の甲冑師による大鎧など、「現代に受け継がれる中世のワザ」を紹介しています。ワザには、「技術」と「生業」という2つの意味があります。

中世より鎌倉で継承されてきたワザを紹介することで、歴史的な展示に入る前の導入部分、過去と現在をつなぐ場として、このフロアを位置付けています。

元は2室あったゲストルームを1室にまとめました。ここは鎌倉の歴史を通史的に紹介する展示室です。原始・古代から近現代に至る鎌倉の歴史の中から、10件の重要事項を選び、写真パネルによる解説と、関連する実物資料をケース展示で紹介します。

鎌倉の通史をコンパクトにまとめた3分半の映像展示もご覧いただけます。

元はリビングだった部屋。源頼朝が居を構えて以降、都市として発展した鎌倉の中世の様相を紹介する展示室です。

壁一面が窓になっていて見晴らしのよい部屋ですが、こうした元の部屋の意匠を保存しながら展示を行うため、紫外線の影響を受けにくい石造物や陶磁器類などの出土品が中心となっています。

鎌倉の地形模型に映像を投影するジオラマプロジェクションマッピングも見所です。

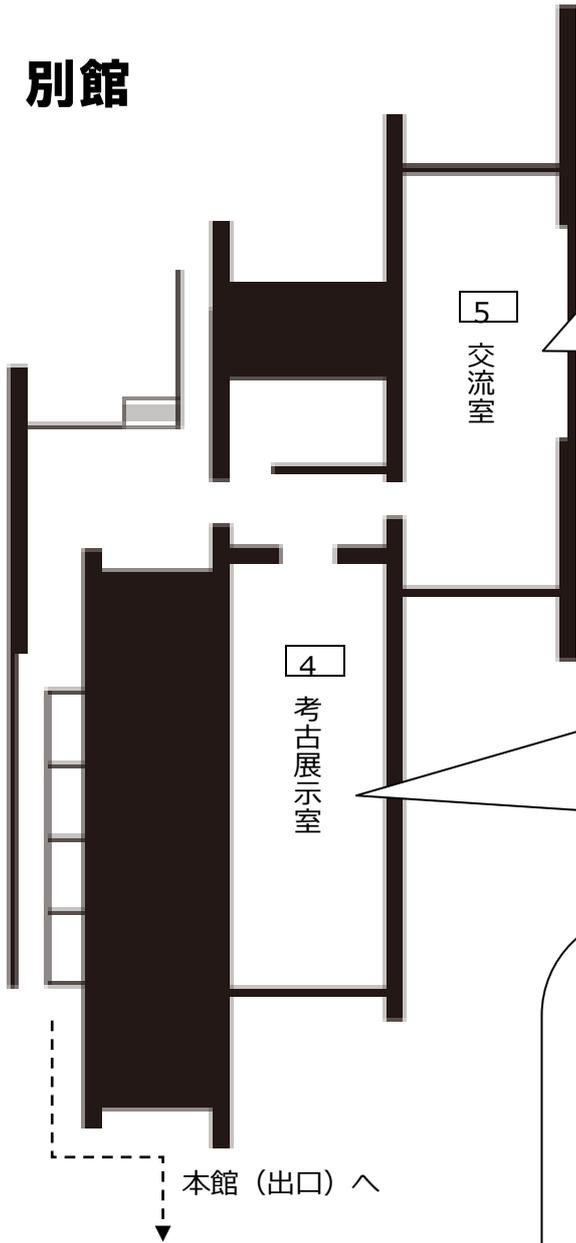
元は寝室だった部屋。壁面に開けられた展示スペースは元の意匠を使用しています。

ここでは、参詣地・観光地として注目を集めた近世～近代の様子や、歴史的遺産との共生を目指す現代の鎌倉の歩みを、パネル展示を中心に紹介します。「杉原千畝と小辻節三」のコーナーもあります。

2面の窓を活かすため、展示資料は写真パネルが中心となっています。

当館の建物は、もともと個人用の住宅として建てられたもので、世界的に著名な建築家ノーマン・フォスター率いるフォスター+パートナーズによって設計されました。2004年に「Kamakura House」という名称で竣工しましたが、その後2013年、所有者から土地と建物、整備費用を市へ寄贈していただき、2017年5月に「鎌倉歴史文化交流館」としてオープンしました。フォスター建築のなかでは個人用住宅は少なく、そうした意味でも大変貴重な建物です。今回の改修工事にあたって、空調設備やバリアフリー対応などを除き、なるべく当初の意匠を残すかたちで改修しました。

別館



元は会議室だった部屋をそのまま使用しています。開館時間中は主に休憩などに用いるフリースペースとしてご利用いただけます。ワークショップや講座なども適宜開催していく予定です。

この部屋から見える3つ並んだアーチ状の横穴は、当地が岩崎家の所有であった頃に造られたものといわれています。その左にある横穴や、別館エントランス正面にある横穴は、中世にさかのぼる「やぐら」です。やぐらは横穴式の埋葬施設で、鎌倉の各所に見られます。中世的な景観の痕跡を感じられる当館の庭をお楽しみください。

鎌倉の地下には、現在も多くの遺跡が眠り、日々発掘調査が進められています。この展示室では、鎌倉で発掘された出土品を通して、鎌倉の地に生きた中世びとの暮らしの有様を紹介します。

現在は、企画展「発掘！かまくら探偵団 2018～日本の焼きもの編～」を開催しています。鎌倉にもたらされたさまざまな日本の焼き物について、鑑賞のポイントや中世考古学の基礎をひもときます。

当館の建つこの谷戸は「無量寺谷(むりょうじがやつ)」と呼ばれ、江戸時代には、相州伝の刀工正宗の後裔である綱廣の屋敷があったと伝えられます。大正年間には、三菱財閥第4代当主の岩崎小弥太が、母親のための別荘を構えていました。岩崎氏は、かつてここに祀られていた稻荷社を「合鍵稲荷(あいづちいなり)」として復興し、参道や鳥居、石造神狐像や社祠を整備しました。

その後平成12年(2000)、センチュリー文化財団がこの土地を取得した後、老朽の著しかった社祠を新たに再建しました。このたび、鎌倉市への土地と建物の寄附にあたり、社祠や神狐像、参道鳥居は、近隣の葛原岡神社(くずはらおかじんじゃ)へと移設されました。高台にある稲荷社の跡地は、現在は見晴台としてご利用いただいております(雨天時は閉鎖)。

【記念スタンプ】

